

Agriculture

営農

農業知識広場

# 農へのこだわり

〜知っててよかった〜

栗田裕弘 指導員



暖かくなるにつれ農作業もにわかに忙しくなる季節です。春作の準備は万端ですか？作業が遅れないよう、早めの準備で今年も計画的に元気な農産物を生産しましょう。

## 『マルチの種類と特徴』

マルチとは、作物に対して好適な環境を作るために株元や土壌表面を覆うフィルムなどの資材のことで、作物の生育促進や農作業の軽減が期待できます。



マルチ栽培では期待する効果や目的にあったマルチ資材を選択することが重要です。

### マルチの種類

#### ●透明マルチ

地温上昇や保温効果に優れますが、土壌表面に光が届くため、雑草抑制効果は期待できません。春ダイコンや促成のトウモロコシ栽培など、地温確保を主目的に使用します。

#### ●黒マルチ

雑草を抑える効果が高く、比較的安価なため最もよく使用されるマルチです。地温と土壌湿度を保持します。

#### ●シルバーマルチ

光を反射することで地温の上昇を防ぐとともに、キラキラした光がアブラムシなどに対する忌避効果を発揮します。主に夏季の果菜類で使用します。

#### ●白黒ダブルマルチ

表が白色で裏が黒色のマルチです。地温は無被覆と同様かそれ以下です。主に夏季の果菜類で使用します。

#### ●有機マルチ

稲ワラや籾殻などで覆う敷きわらもマルチの一種です。保温効果はありませんが地温抑制効果が高いため、気温の低い時期には地温が上がらず、生育を抑制する場合があります。春先の地温の低い時期は薄い敷きわらとし、梅雨明けごろ敷きわらを厚くするとよいでしょう。

#### ●土壌保護

土壌表面が保護されるので、耕起直後の柔らかい土壌を長期間維持できます。

#### ●病害低減

降雨などによる土の跳ね上がりや低減され、植物体が汚れ難く、病害が少なくなります。

#### ●土壌水分の安定

有機マルチ以外は効果が期待でき、マルチ内の土壌水分の変動が少なく、降雨の多い時や干ばつ時の水分変化を最小限にとどめることができます。

種類	効果		
	地温上昇	抑草	害虫忌避
透明マルチ	高	低	低
黒マルチ	中	高	低
シルバーマルチ	低	中	高 (アブラムシ)
白黒ダブルマルチ	低	高	中
有機マルチ	中	低	低

営農のことに関するアドバイス

## 営農110番

水稻・野菜・花き・果樹など、農業に関するアドバイスをいたします。

受付：平日 9:00～17:30

- 広島南営農事務所 ☎(082) 849-6355
- 広島北営農事務所 ☎(082) 841-4919
- 山県営農事務所 ☎(0826) 85-0020
- 本店指導販売課 ☎(082) 870-5893

※本店指導販売課では土曜日9:00～12:00まで対応

今月の農作業

### 『ジャガイモ』

ジャガイモは石灰を多く施した土壌で栽培すると、イモの表面にアザが出来る「そうか病」が発生し易くなりますので、土づくりの時注意が必要です。毎年「そうか病」の被害が多い圃場では、定植前にフロンスサイド粉剤を3〜4kg/a土壌混和すると被害を軽減できます。

### 『サヤエンドウ、実エンドウ』

まだ支柱を設置してない畑は早めに設置しましょう。葉の茂りすぎは病害虫の発生を助長するばかりか、日照不足による着果不良の原因となりますので、適時わき芽かきを行いましょう。

追肥：「追肥これだけ」を開花時期に 2kg/a